

*** SOURCE LIST ***

```

ISN      STATEMENT
 1      C  GOSA NO TAME>HISAN
 2      DIMENSION A(5)
 3      PAIH=0.314159E-3
 4      PAI2=0.0
 5      DU 10 I=1,10000
 6      PAI1=PAIH*FLOAT(I)
 7      10 PAI2=PAI2+PAIH
 8      X=31.457
 9      A(1)=2.12356
10      A(2)=3.55336
11      A(3)=15.4216
12      A(4)=9.52631
13      A(5)=110.135
14      Y1=((A(1)*X+A(2))*X+A(3))*X+A(4))*X+A(5)
15      Y2=A(1)*X**4+A(2)*X**3+A(3)*X**2+A(4)*X+A(5)
16      WRITE(6,600) PAI1,PAI2,Y1,Y2
17      600 FORMAT(1H0,5A,3H1-A,F12.7,5X,3H1-B,F12.7/1H0,5X,
18      13H2-A,F12.2,5X,3H2-B,F12.2)
19      STOP
20      END

```

1-A 3.1415900 1-B 3.1387300

2-A 2205651.00 2-B 2205652.00

— I / O チャンネル —

私と計算機センター

期せずしてコンピュータに接するようになった。コンピュータというものを全く知らないずぶのしろうとがコンピュータの操作からプログラミングまで一通りしなければならなくなった。始めはセンターの受付兼雑役としてコンピュータは私には全くかかわりあいのないものとおもっていたのである。しかしそのうちにしだいにそうでないことがわかってきた。受付は単にカードの出し入れの場ではなく、エラーの質問場所でもあったのです。次々とやってくる質問に私はただうろたえるばかりで常に他のセンター員の手をわずらわせたものです。これではいけないと、センター員全員何でもできるようにと私もほんのすこしコンピュータをかいまみることができたのです。全く関係のない分野からきている私は時間外まで利用しプログラミングの指導を受けました。特に数学的なことが嫌いな私は、わかったのか、わからないのかさっぱり表情で黒板をにらめっこした日が何度もありいやになることもしばしばでした。でも何日もかかって一つのプログラムを作り計算機にかけたときは、たとえエラーであろうが、印字された自分のプログラムを手に感激したものでした。今、私の後につづく新人達も同じような体験をしているかどうかはわからない。しかし計算機とたった2年間だけのつきあいだったけど、この経験は、これからもほんの少しであろうが何らかの形でいかされそうです。計算機センターに勤められたことを本当にうれしくおもっております。

(R. T)